



ポケッガイドを持って歩いてみよう!

みなさんに差し上げるのはA3サイズの片面印刷ですが、これを山折り、谷折りとするとA6のポケッサイズに仕上がります。ポケッガイドはもちろん無料。興味を持った人は、遠慮なく申し出てください。そして、このガイドをポケッに入れて、掛塚の町を歩いてください!



磐田市見付水堀の皆さん

9月27日(日)、磐田市見付水堀の人たちが、掛塚の旧廻船問屋・津倉家住宅を見学に訪れてくださいました。参加者は18人。新型コロナウイルス感染症防止に気を使い、全員マスク姿での見学です。案内する「みんなと倶楽部 掛塚」メンバーは3人。18人を3つのグループに分け、6人づつで約1時間の見学会。掛塚は北遠の木材集積地で、旧津倉家住宅は宮大工だった曾布川藤次郎が建てた掛塚ならではの贅沢な家。腕のいい大工が良材を使って建てた家には、渡辺華山の弟子、福田半香・平井頭斎が描いた水墨画の襖、手の込んだ建具や古いガラス、昭和10年に増築された洋間など、見所がいっぱいです。私たち「みんなと倶楽部 掛塚」が掃除や草取り、庭木の剪定や花壇の手入れなどをして、見学に来られる方々をお待ちしています。自治会や学習サークルなど、グループで申し込んでいただければと思います。(記事 齊藤朋之)



# みんなと倶楽部

My hometown Kaketsuka



## 第19号

- P1 ポケッガイドができました。見付水堀地区の方たちによる 旧津倉邸の見学
- P2-3 秋の旧津倉家住宅見学会 秋晴れの下、見付の蔵めぐり 掛塚の昔の写真 Vol.2
- P4 ちよつといーけ 鈴木良夫さん(東町)

### 見付水堀地区の方たちによる旧津倉邸の見学

無料!

### ポケッガイドを持って掛塚の町を歩きましょう!

私たちは、地域の皆さまにより楽しく町歩きをしていただくことを考え、(財)伊豆屋伝八文化振興財団のご支援を得てポケッガイド「掛塚歴史さんぽ」を作りました。

ポケッガイドは見開きページごとに「湊(みなと)の面影」「蔵の町」「街並み」の三つの視点で解説しました。廻船問屋の建物やその庭に植えられたなぎの木、町を巡る水路の跡など、湊町の繁栄が偲ばれます。「遠州の小江戸」とも呼ばれた往時の繁栄を今に伝える木材を運んだ帰りに積み込んだ伊豆石は、蔵や堀として利用され、レンガ蔵やなまこ壁の蔵なども湊町の繁栄を物語っています。そして、腕利きの大工や建具屋などの職人が腕を振るった商家の建物などを紹介。

このポケッガイドを眺めながら、掛塚の町を歩いていただきたいの思いから作りしましたので、1人でも多くの人に活用してもらいたいと思っています。

みなさんに差し上げるのはA3サイズの片面印刷ですが、これを山折り、谷折りとするとA6のポケッサイズに仕上がります。ポケッガイドはもちろん無料。興味を持った人は、遠慮なく申し出てください。

そして、このガイドをポケッに入れて、掛塚の町を歩いてください!

時々ポケッから取り出してバラバラすると、きつと今まで気づかなかった掛塚の歴史や魅力が見えて来るはず。さあ、掛塚の町を、楽しく歩きましょう!

# ちよつといーけ?

## 鈴木良夫さん 81歳(東町)



昭和54年、40歳になる年に掛塚祭りの竹馬をやらされました。昔は竹馬をやりたかない人が多くてなかなか決まらん時があったよ。祭りが始まる間際まで決まりやへんもんで、貴船会の役員が「早う何とか決める!」って怒っちゃって。(笑)しょうがないもんで世話係の衆が代わりをやったりして。むかし長五郎さんという人がいて、竹馬を2回だけ3回やったけど、あの人は竹馬が似合ってたよ。

俺も本当はもっと早くやりたかったけど、神楽の太鼓を他に叩く人が居なかったもんでちよつと遅くなったよ。竹馬の時は祭りの1週間前から毎日天竜川の河原までバレンと身体を洗って行ったけど、昼間だとみんな見ているもんで夕方に行ったよ。(笑)本祭りの朝は駒場の浜まで浜垢離(はまごり)に行くけど、俺の時は台風みたいな雨で、流されちゃいかんもんで浜の入口の方でバレンと身体を清めたよ。

竹馬の衣装は途中で緩まんに紐をキツと締めるじゃん。お面も被ると天気がカンカンしている時はおましいけど、おれん時は雨だったもんで合羽を着て走ったよ。竹馬のお面は目の位置が合わんと前がよく見えん。転んじやあいかんもんで若い衆が横に付いてるだよ。まあ俺は大体合ってたけど。竹馬は角々でバレンを腰に乗せて振るだけ、横に付く若い衆と一緒に持つもんで本人はそれほど大変じゃないよ。朝は町内(東町)回りをして、それから神事に間に合うようにお宮まで行くよ。竹馬っていつとみんな泡くって、お宮へ入る時は若い衆が各町の提灯を持ってワアワアやるもんで、あれが一番いいだけよ。

貴船社で面を清めお神輿の露払いをしながら御飯屋へ。休憩の後、同様に露払いをしながら貴船社へと戻りお神輿が拜殿に入るのを見届けお宮を一周回って東町へと帰っていく。

その時分には「ちよつと家に入ってたや」と言われることがあって、俺の時は新町の佐々木さんの家へ入ってきたよ。竹馬はおましいけど一回はやってみてもいいよ。同級生が竹馬をやりたいなあって言うもんで、東町に引越したらやらかいてやるって言ったよ。(笑)

御神楽の太鼓は長い間お身内で受け継がれていとお聞きしましたが

太鼓は俺のお爺さんや叔父さんがずっと叩いてたよ。神楽箱は今も口で転がってて昔は担いでたもんで、あれは重くて大変で太鼓を習えって言われて。中学ん時は飯の時にはいつも「ちよつと」で茶碗を箸で叩いて習ったよ。お爺さんが先に叩いて、それから俺がやるってテンポが違うぞと、それぐらいでいいよと。楽譜なんて無いもんで、お爺さんにそういうリズムで叩くことを教わったよ。でも初めて太鼓を持ってやると思うように当たらんよ。(笑)



温故知新! 掛塚を知る「にーさ・ねーさ」の方々に、掛塚生まれの主婦二人組(のりこ&さゆり)がインタビュー。今回は、東町の鈴木良夫さんにお話を聞いてきました。

神楽の太鼓は屋台の小太鼓ぐらいの大きさで、紐がついてそれを腕にかけて持つもんで、歩いてるとあっち向いたりこっち向いたりするよ。だもんで太鼓を絞めてる紐をちよつと指にかけてなるべく動かんように持つじゃん。太鼓にベタッとパチが当たったり強けど太鼓が動く縁に当たったりするよ。パチはあんまり強く持つてもいかんし、緩く持つてると飛ばないこともあるよ。出発の時のお囃子は「いかまいか」とって威勢よくやって、道中はちよつと加減して、神社や御飯屋に着いた時や出る時はちよつと早めにするよ。(手に)豆は出来んけど一周回ると腕は痛くなるよ。

従弟が学校を降りて若い衆に入ってきて、俺は竹馬やるで太鼓を習えって言ってやりだしたよ。何年かやってたけど従弟は早く死んじゃったもんで、それからまた俺がやってたけど。ずつと一人でやってたけど今は娘ともうひとりの子で交代でやってるよ。お波りの時に知ってる衆に「太鼓はやらんだけ」と言われるけど、俺なんかこんな年になつていつまでもやってたら笑われちゃうよ。(笑)

げんぞう池で「ひしがら」採り、河原では「グミ」?

あの時分は今の東町の公会堂の所に「げんぞう池」と言う沼があったよ。夏になると「ひしがら」って水草が出てきてそれに角みたいな実が付くけど、それをよく採ってきた。採りに行ったついで水の中で深いもんで、みんな家から持ってきた木のたらいに乗って、みんな「おい、採ったか?」「ちよつと見せてみよ」と、ちよつと悪さするとたらいがひっくり返って採った実をみんな落とすよ。それ面白くないよ。(笑)大きさは空豆ぐらいで茹でると味が甘いよ。おやつにするにはあ美味いよって食べたよ。いま思えばあれがどうだか分からんけど、その当時は実みたいなのが食べたよ。小さい時は川岸の木に生る「ぐみ」という小さい実を採りに行ったよ。長ひよりのグミとか丸いグミがあつて採っちゃ食べたよ。ちよつと酸っぱいような甘いような。昔だもんで食べるもんでもないもんで、ガキら採って食べたよ。今の時分になると真っ赤な鈴生りに生つてたんだよ。



【取材・記事のりこ&さゆり】

みんなと倶楽部 My hometown Kaketsuka



- 会長 池田藤平
- 事務局 名倉慎一郎、大沢利行、齊藤朋之
- 編集 霧田茂巳、山内紀子、鈴木小百合、須田明広、長谷川智

### お問い合わせ

ご興味のある方は下記までご連絡ください!

☎0538-66-4775 (名倉)

# 皆さんからご提供いただいた 掛塚の昔の写真 Vol.2



昭和15年御渡 (中町 佐藤さん提供)



中町屋台 (中町 林さん提供)



昭和12年 消防器具点検 (中町 佐藤さん提供)



大正12年頃の掛塚橋 (中町 佐藤さん提供)

## 掛塚の古い写真を募集しています。

今後のイベントで、古写真展を企画しています。  
写真の提供にご協力いただける方はご連絡ください。お借りした写真はコピーした後、お返しいたします。

☎ 0538-66-4775 (名倉)



## 検温・消毒を忘れずに、秋の旧津倉家住宅見学会

10月17日(土)18日(日)、津倉家住宅見学会を開催しました。毎年恒例の「掛塚まつり」が中止になった中、感染症対策として、玄関から入る前に非接触型体温計で検温し、37.5℃以下であることを確認した上で、手や指を消毒してチェックシートに名前や連絡先を記入。マスクをしていただいております。

見学会のガイドをしている私たちでも、福田半香や平井顕齋が描いた襖絵であることを紹介することはできません、絵の見方や評価についてはなかなか解説できません。しかし、日比野先生の講義を聞いた後、大きな襖絵を立ったままで見ることができ、座って視線を下げて見ることが大切と知りました。



コロナ対策で検温



日比野秀男名誉教授の特別講座

今回の津倉家住宅見学会は、企画として「遠州の小江戸 むかしの写真展」を併催。「みんなと倶楽部・掛塚」広報紙を通じて、自宅に残された古い写真を募集したところ、思った以上の反応があり、たくさん写真が集まりました。



そのため、すべての写真を展示することはできませんでしたが、出来る限り額に入れたり、透明ファイルに入れ、津倉家の物置小屋だったと思われる建物を手づくりリフォームして飾り付けました。

昔の「掛塚まつり」の様子、懐かしい町角の風景、出征兵士壮行会や竜洋西小学校の航空写真など、あの頃のことを思い出される写真がいっぱい。展示会場の外には、テントを張ってテーブルと椅子を用意しましたので、展示会を見てすぐに帰るのではなく、思い出したあんなことやこんなことを話し合う明るい声が響いていたのが、「遠州の小江戸 むかしの写真展」の嬉しい成果でした。

## 秋晴れの下、見付の蔵めぐり

11月14日(土)は「みんなと倶楽部掛塚」の勉強会。かつて「見付宿」として栄えた磐田市見付の地域づくり団体「見付宿を考える会」にお願いし、見付に残るお蔵を楽しく巡りながら、地域の歴史や文化について丁寧に教えていただきました。「見付宿を考える会」は、見付に残る個人所有の蔵の構造や材料などのほか、蔵の歴史や由来、用途などを丁寧に調査し、その成果は磐田市教育委員会から「見付のお蔵」として、今年(2020年)6月に出版されたばかり。

まずは、見付交流センターに集合して、参加した私たち19人と「見付宿を考える会」メンバーとの顔合わせ。その後、寺田伊勢男会長や持塚和宏事務局長ら「見付宿を考える会」のみなさんのガイドで、2時間半ほどの町歩き。石の蔵、レンガの蔵、漆喰の蔵などを眺め、楽しみながら学ぶことができました。



見付の蔵めぐり



遠州の小江戸 むかしの写真展